こども園における自己評価

八尾市立東山本わかばこども園

4:十分達成している　3:ほぼ達成している　2:検討を要する　1:改善を要する

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	
	・目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	
	・毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	
	・１日の流れ（ディリープログラム等）は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	
	・行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	
	・子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	
	・素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
	・子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4	

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員の資質向上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	3	・ウェブ研修を積極的に活用し、オンデマンド研修は、複数回視聴できる日時を設定するなどして、研修に参加しやすい体制づくりに努めているが、外部研修へ参加できる人数に限りがあること、研修した内容を全職員で共有する機会がもちにくかったことが課題である。次年度もウェブ研修を活用し、内容を共有する機会を工夫したい。
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	3	
運営管理・職員間について	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか	4	
守秘義務の遵守	・乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか	4	
	・公文書収受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目		内容	評価	備考欄
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	・コロナ禍で、昨年に引き続き、地域や関連施設との連携・交流の機会を充分につくることはできにくかった。しかし、小学校や中学校の校庭を利用させていただいたり、中学校の運動会予行練習を見学したりした際に、児童生徒と園児との自然な関わりがあったり、就学前施設とは5歳児を中心に2園と交流することができた。また、小学校の保健安全美化委員会が来園して4・5歳児に手洗いの大切さを教えてくれる機会をもつことができた。感染対策を取りつつ、少しずつ交流の機会を増やしていきたい。
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	3	
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互恵性のある交流になるように工夫しているか。	4	
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	3	
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4	
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	3	
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4	
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4	
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4	
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4	
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	4	
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実に役立てているか	4	
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	3	・コロナ禍で園外の方を招くことができなかったが、次年度は、第三者委員さんに園の様子を見ていただきご意見をいただく機会をもちたい。
		・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	4	
施設・設備		・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4	
		・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4	
		・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4	
		・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	4	
経理出納		・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4	

成果

本園では、令和3・4年度幼児教育研究園として、大阪総合保育大学　瀧川光治教授にご指導をいただきながら、保育の質の向上に取り組んできた。子ども一人ひとりの状況を温かいまなざしで肯定的に捉え、安心して自己を発揮して過ごせる環境づくりを基本に、子どもが環境に主体的に関わりながら様々な学びを得るための保育環境の工夫や保育者の適切な援助について、探求してきた。自由参観後の保護者の感想では「たくさんの経験の中で成長させてもらっているなと感じました。いつも温かい目でみてくださってありがとうございます」「日々工夫を凝らした保育内容に子どもが楽しく園に通っています」等感想をいただき、保育者が大切にしていることが保護者へも伝わっていることが分かった。

コロナ禍ではあったが、できる範囲で施設・地域との交流や連携をもち、多様な経験を通して保育が多方向へ広がった。昨年度に引き続き、小学校の校庭で散策しているときに、20分休みにでてきた小学生がうさぎを見せてくれたり、2歳児が教頭先生にお願いしてコスモスをいただいたり、中学生の運動会予行練習を全学年が参観させていただいたりと、自然な関わりをもつことができた。3学期には、小学校の保健安全美化委員が4・5歳向けに手洗いや歯磨きの大切さを伝えに来園してくれた。また、5歳児が南山本せせらぎこども園・マリア高安保育園と交流することができた。リレー対決をしたり、子どもたちが作った遊びを一緒に楽しんだりと、互いに良い刺激となった。秋には、4・5歳児がしおんじやま古墳学習館へ徒歩遠足に行き、施設を見学させていただいたり、幼児向けの古墳スタンプラリーを体験させていただいた。経験をもとに園で「ハニワこうてい」の衣装を作ったりスタンプラリーを再現したりして遊んだ。遊びの様子の写真や手紙を学習館に送ると「ハニワこうてい様」が返事をくださり、「ハニワこうていのTwitter（@haniwa_emperor)1月9日」にも投稿してくださった。

また、子育て支援事業コーディネータを中心に、地域交流の場を活用して子育て支援に取り組んだ。参加してくださった親子と交流を深め、参加者同士が話ができる場をコーディネートするなど、子育ての悩みに寄り添う活動を実施した。地域交流の様子はその都度、ホームページにて発信してきたことで、年度の後半にはホームページを見て参加してくださる家庭も増えた。

課題

アフターコロナの保育はどうあるべきか。多様な経験の機会をもつために、施設・地域との交流の機会を増やし、豊かな経験を通して多様な学びの機会をつくっていきたい。小学校・中学校とは、コロナ禍で、幼稚園・保育所時代におこなっていた交流活動が途切れてしまっている。

今年度は、各学期に1回、参観や自由参観を実施することができ、保護者の方々にこどもの園での様子を見ていただく期待をもつことができたが、感染対策の一環として時間や人数を制限せざるを得なかった。ご理解・ご協力は得られているものの、祖父母にも様子を見せてあげたいなどの要望もある。感染対策の必要がなくなるわけではないが、子どもに負担がかからない方法でより多くの方に保育を見ていただける方法について模索していく時期だと感じている。

2年間の研究が今年度で終わる。次年度以降、本園の保育の質の向上、保育者の資質向上をどのように進めていくか。新たな仕組みづくりが必要である。保育者の自己評価を見ると、特別支援教育や子どもの権利擁護に関する研修へ積極的に参加できていないと回答した保育教諭が一定数存在する。また、研修受講後に学びを園全体で共有する機会が持てていない実態がある。研修の機会や、園の代表として研修に参加した先生が学んだことを園内で共有する機会の確保が必要である。

また、子育てに悩みがあるものの相談できる相手がおらず一人で抱えている保護者への支援の必要性を感じている。担任だけではなく、園全体で保護者を支援するためにも、情報や支援の方向性についての情報共有が大切であると感じる。

改善策

地域連携コーディネーターを中心に、施設・地域との交流の機会を増やす取り組みとして、小中学校の先生との関係づくりや互恵性のある交流活動を再開できるように、アプローチしていきたい。また、本園の周りには豊かな自然環境があり、日頃の保育の中でも子どもたちは自然環境に触れ遊びを豊かにしている。東山本小学校区の会議「ラウンドテーブル」でお世話になっているまちづくり協議会の会長は、地域の自然環境についても造詣が深く、綿の苗をいただいたり、会長を介して河内木綿藍染保存会から綿繰り機をお借りしたりと大変お世話になっている。今年度は園で、5歳児を中心に藍を植え、全学年で藍染めを体験したが、来年度は、河内木綿藍染保存会の方々とも交流を深め、藍染めの取り組みをご指導いただきたいと思っている。

次年度の研究について、新たな研究テーマを設定し、各クラスの担任が積極的に学ぶことができるように、園内研究会（公開・非公開）を活用していきたい。また、これまで同様、ウェブ研修も活用したり、研修受講後には学習会等で学んだことを共有する機会をつくったりしながら、多様な研修の機会を提供する工夫をしていきたい。

主幹保育教諭が各クラスにフォローに入ることで、担任や保護者の思いや悩みを把握し相談役になることができる。これらの情報を主幹保育教諭・管理職で共有しながら子育て支援の方向性を話し合い、園全体で連携しながら子育て支援に取り組んでいきたい。保護者へは、写真の掲示、玄関ホールのモニターの活用、参観の実施など、様々な機会をとらえて保育内容について啓発していきたい。

令和3年4月　こども施設運営課